

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：シクラメン栽培における天敵と防蛾灯を利用した減化学農薬栽培技術			
[要約]シクラメン栽培では、アザミウマ類の天敵であるククメリスカブリダニ、ヤガ類の行動を抑制する黄色又は緑色蛍光灯を使用にすることでこれらの害虫の被害を軽減できる。			
キーワード	シクラメン、ククメリスカブリダニ、ヤガ類、黄色蛍光灯、減農薬		
実施機関名	主 査 農業総合研究センター・生産技術部・花き緑化研究室 協力機関		
実施期間	2003年度～2007年度		

[目的及び背景]

環境にやさしい鉢物栽培技術の確立が求められていることから、県内で栽培が多いシクラメン栽培について、減農薬技術として注目されている天敵や防蛾灯の効果を検討する。特にアザミウマ類の天敵であるククメリスカブリダニ及びヤガ類の行動を抑制する黄色と緑色の蛍光灯による害虫防除効果並びに生育に及ぼす影響を明らかにする。

[成果内容]

- 1 ククメリスカブリダニ剤は、10月からの放飼によって、アザミウマ類に対して、化学合成農薬と同程度の防除効果がある。かん水方法は防除効果に影響しない（表1）。
- 2 夏季からの黄色又は緑色蛍光灯の終夜点灯により、ヤガ類の被害を顕著に軽減することができる（表2）。また生育への影響は認められない（表3）。

[留意事項]

- 1 ククメリスカブリダニ剤は、鉢当たり50～100頭を放飼する。
- 2 防蛾灯の最低照度は、株上で2Lx程度とする。20Wの蛍光灯の場合、株からの高さを2mとし、かつ6m間隔の設置を目安とする。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

香取、海匝地域のシクラメン圃場数か所に導入されている。

[成果の概要]

表1 かん水方法及びククメリスカブリダニ製剤形態の違いがアザミウマ類の防除効果に及ぼす影響

試験区		アザミウマ類補正密度指数				被害度
かん水方法	防除方法	11月1日	11月8日	11月13日	11月22日	11月30日
手かん水	ククメリス粉剤	54	13	23	6	6
	ククメリスパック剤	142	31	23	3	5
	化学農薬	41	76	90	41	22
	無処理	100	100	100	100	46
エプアンドフロー	ククメリス粉剤	48	28	16	8	15
	ククメリスパック剤	57	22	32	32	14
	化学農薬	25	52	41	8	21
	無処理	100	100	100	100	88

注1) 化学農薬：アセフェート水和剤1,000倍液（2回）

2) 補正密度指数：処理区のX日後密度/処理区の散布前密度×無処理区の散布前密度/無処理区のX日後密度×100

3) 被害度：(被害程度0×当該数+被害程度1×当該数・・・被害程度4×当該数)/(全調査数×4)
被害程度0(被害面積なし)、1(20%程度)、2(40%程度)、3(60%程度)、4(80%以上)の5段階

表2 夏季からの防蛾灯の点灯がヤガ類の食害葉数及び被害株数に及ぼす影響

試験区	9月15日		11月15日		12月14日	
	食害葉数	被害株数	食害葉数	被害株数	食害葉数	被害株数
黄色蛍光灯	0	0	0	0	0	0
緑色蛍光灯	0	0	5	4	0	0
無処理	0	0	110	12	13	5

注1) 8月1日から防蛾灯を終夜点灯（表3も同様）

2) 各区20鉢

表3 夏季からの防蛾灯の点灯がシクラメンの生育に及ぼす影響

試験区	草丈 (cm)	株張り (cm)	葉数	葉柄長 (cm)	花数	花柄長 (cm)
黄色蛍光灯	17.8	36.2	158.1	12.3	26.3	21.7
緑色蛍光灯	18.3	37.0	176.2	12.1	26.6	21.4
無処理	18.9	36.1	165.5	12.3	22.7	20.6

注1) 調査：12月14日

2) 各区20鉢

[発表及び関連文献]

平成14～18年度生産技術部試験成績書

[その他]